

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

2019 年度

法人名	NPO 法人ワークーズ ユープかがやき	代表 者	新井 厚美	法人・ 事業所 の特徴	「わが家で暮らし、わが家で老いる」を実現するために、平成 23 年善光寺さんに程近い 場所に開所しました。平成 29 年 10 月現建物に移転。ご利用者様おひとりおひとりに出来 る事を継続していただけるよう、スタッフが関わりを多く持ちながら個別ケア対応で支援 させていただきます。楽しみに来ていただける場所の提供を全スタッフが目指しています。
事業所 名	小規模多機能型居宅介護 たわわ善光寺下	管理 者	片岡 茂子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団 体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	1 人	2 人	人	1 人	1 人	人	2 人	人	8 人

項 目	前回の改善計画		前回の改善計画に対する取組み・結果		意見		今回の改善計画	
A. 事業所自己評価の 確認	より具体的に改善できそうな計画を、項目ごとに現時点で必要な事に絞る		・日々の仕事に追われる中ミーティング・カンファレンスを行っていることは今年も評価できる。 ・出来なかったことは引き続き検討していつてもらいたい。		・介護保険制度の理解も難しい中事業所の改善点や意見をとまれても困惑が多い。		・具体的に改善できそうな事に絞り、現時点で必要な事を項目ごとに改善計画を立てる。	
B. 事業所の しつらえ・環境	・居場所として認識できるような工夫 ①定位置の座席・泊時の静養室の固定化等混乱しない様な配慮をする。 ②利用者さんが自由に動きながらも見守りが行き届くようなチームケアを行う		・認知症の方が穏やかにお過ごしいただけるよう工夫をしながら対応している。 ・危険のない動線の確保を常に全スタッフが意識し声だし確認を行っている。		・利用者さん家族や地域のボラさん他事業所関係者含め外部からの人の出入りは常にある。 ・常にスタッフがいるので出入りはしやすい。		・室内に入った付近に相談できる場所を設けてあるので来客時は活用をしていく。 ・スタッフの接遇研修を行いどのスタッフも気持ちよく対応できるようにする。	
C. 事業所と地域のかかわり	①地域に提供する場所の確保 歩行中の近隣の方がお休みできるような場所を施設前の駐車場に提供をする。 ②たわわカフェの継続開催		・地域に目を向けて考えていきたい。 ・外ベンチに座ってお休みされる方を時々見かけたのでそのまま継続使用していただきたい。 ・カフェの開催は少人数でも続けたい。		・災害時等の対応を設定しておくのは大事。 ・新しい事をやろうとするのも大事だが、今やれていることを継続してほしい。		・地域に提供する場所を施設前の駐車場に設置する。 ・近隣のお店での買い物を利用者さんと共に行う。	
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・散歩・買物・外食等外に出る機会を多くする。		・地域に出ていくことは大切と思うが、利用者さんの心身状態をみると負担が大きい方も多い。 ・外食は楽しみにされているので年数回の実施を今後も行いたい		・地域の行事イベント参加は無理でも地域の事を話題にすることは必要だと思う ・近隣への散歩でも意味はある。		・散歩・買物・外食等外に出る機会を多くする。	
E. 運営推進会議を活かした取組み	・運営推進会議の中で地域関連の事例を話し合う時間を設け情報の共有に努める		・地域の事は個人情報に触れる事が多いので詳しく話すことが難しい場合がある。		・地域の中で起こっている事に対して介護施設として関わりが持てる場合は積極的にお手伝いをしていくことが大事。 ・地域密着の観点から近隣の利用希望者を優先している。		・運営推進会議の中で地域関連の事例を話し合う時間を設け情報の共有に努める。	
F. 事業所の 防災・災害対策	・年 2 回の避難訓練の実施 (9・3 月)	・避難訓練の実施報告は運営推進会議で行っているのでたわわの様子は大体分かっている。 ・地域の避難訓練の日程と合わず参加できなかった ・スタッフだけでも地域の避難訓練に参加したほうが良かった。		・避難訓練はいざという時大事なので定期的に行うこと ・地震・火事以外の災害を想定しての避難訓練を行う必要がある。		・防災計画を立て年 2 回実施していく。 ・想定される災害の種類（火災・地震・水害等）を変えて行う。		